

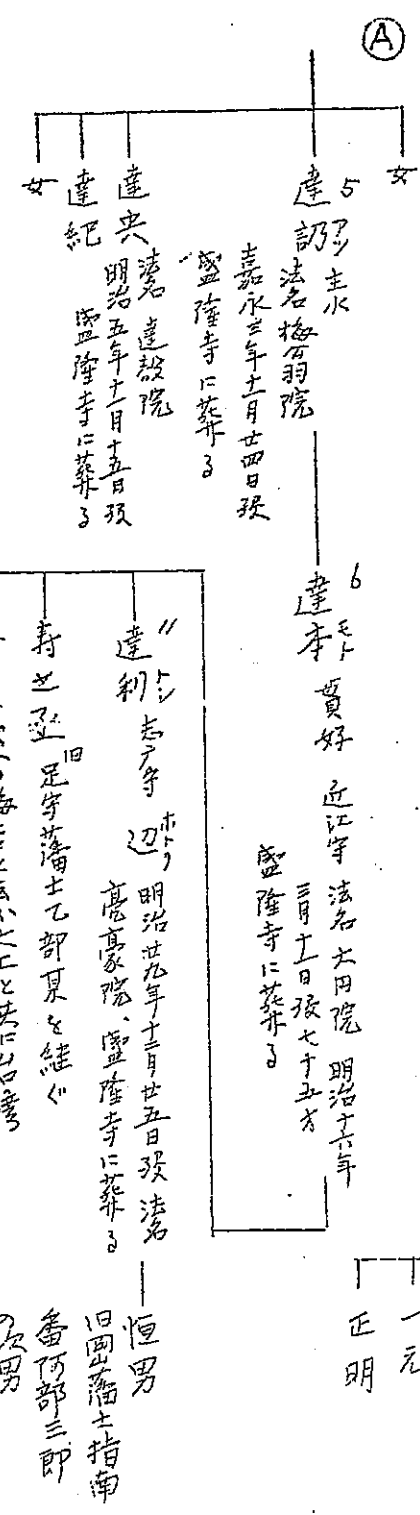
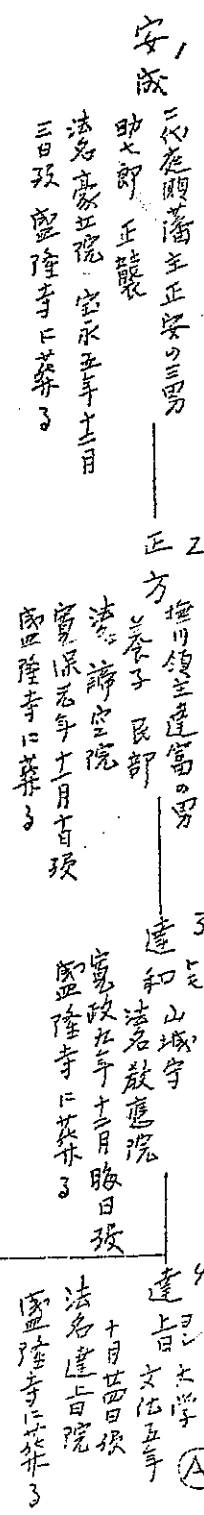
きびのさと

NOZI 月刊

昭和三十五年三月一日 発行 (非賣品)
 発行所 岡山県都窪郡吉備町庭瀬七丁目字垣方
 吉備 親光 切切 会

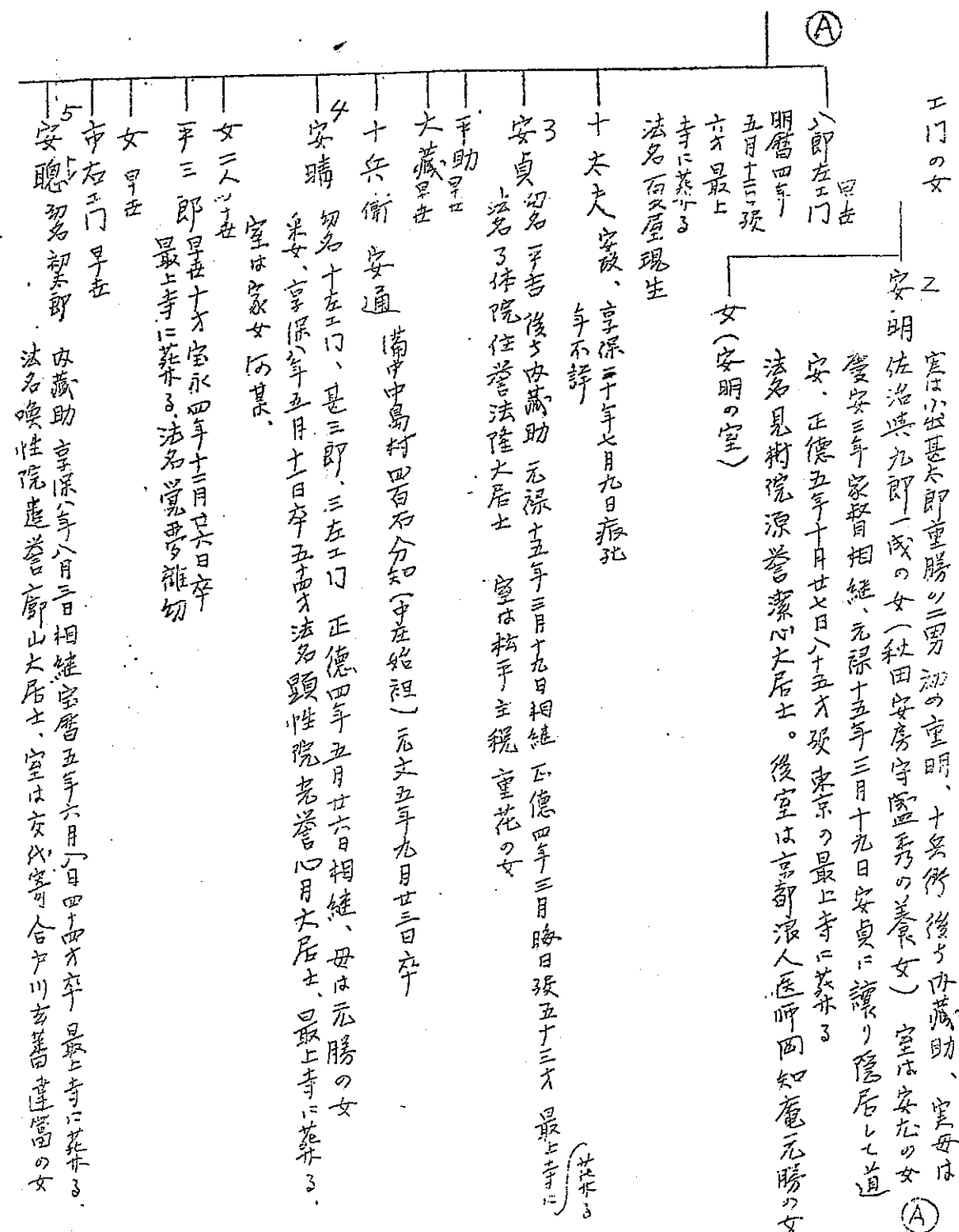
第九輯 系譜誌 第二号

妹尾戸川氏系譜



早島戸川氏系譜

安九 庭願主達安の五男 母は岡里初守元忠の女 初め主馬、内藏助 寛文八年三月四日早島村
 中庄村東ノ庄の内に三千四百石 慶安三年六月九日没 年不詳 東京市目黒増上寺
 下屋敷山内最上寺に葬る 法名 空持院 照善 湘心大居士、室は浪人柴田源左



故也。及今年室永^(五)甲申^(五)春秋凡五十六七。黎民術業得大便。天長地久萬々歲。此れによつてみれば、福田村大福地内の同態は正安の正保頃(二六四一-六四七)にして、水田に今も地割の名稱は其の名残りを止めるものである。田府主とあるはこの記録が撫川領主に移つてから四代後方の戸川玄蕃達富の室永元年(一七〇四)に記したためならぬからである。

△ 戸川安成

正安の弟 早島領主の始祖 三千四百石 慶安三年六月九日歿

法謚 室樹院照誓湘心大居士

室は浪人柴田源左エ門の女

△ 戸川安利

正安の弟 帯江領主の始祖 三千三百石

室は小出越中尹貞の女

○ 戸川安宣

庭瀬城主 三代 主肥之丞 玄蕃 從五位下 出佐守

室は系統詳みでないが、鹽隆寺廟所の安宣の墓石の傍に「則庭清心靈運

延空四年七月上旬十日」とある墓標はこの人であらう。

安宣は慶安元年に生れ、寛文九年七月十九日父正安の嗣を継いだ。

對内の農事に意を注ぎ、珠に水利に關してはその施設を完備した。今

の六間川の用水路を設けて撫川から西へ西庄、中庄、万壽、菅生の各村

迄へ通じ、川幅は六間、長さは八千九百四十四間といわれ、一丈溝深に

て低地の排水に使じたのである。

これに寛文三年の工事にして、人夫十延二万六千六百八十九人を使役

したといふ。延空二年十二月廿七日病に罹り二十七歳にして歿した。

法謚 清性院殿覺庭園意大居士。始の不養院に埋葬した。後々妹尾の

鹽隆寺に移した。

△ 戸川安成

安宣の弟 助七郎 三次郎 室助 赤尾領主の始祖 三千五百石

○ 庭瀬城主

四代 庭瀬助 安宣の子 (母は妾腹、姓は不詳)

寛文十一年庭瀬邸内に生れ、延空三年三月廿三日母襲したが同七年十

一月二日卒した。年僅かに九歳。東京三田の大衆院に葬つた。

法謚 天心院殿素性玄通大童子。

安成の北後嗣が絶えたので除封せられ藩籍を脱し、弟の達富が七歳にレ

て撫川に移された。

○ 戸川達富

撫川領主 初代 五千石 正滋 植千代 主計 玄蕃 交代寄合

室は赤堂源一即玄親の女。(享保五年十月廿日歿、法謚貞珠院殿芳舟貞量太師)

母は安成と同じく妾腹にして、姓は詳でない。(元文二年六月廿六日歿、法謚冥應院殿玉聚

日長太師)

達富は延空三年三月二十三日父の遺領の内にて千石を領し(年三歳)延

空七年十一月元の安成が早逝したのでその嗣を継ぎ交代寄合に列せられ

四千石を如増。即ち賀陽、都守兩郡の内にて庭瀬に任したが、天和三年

十月に采地を割いて小田、川上兩郡の内にて替えられ撫川に移住した。室

永五年正月十一日定火浦役になつたが正徳五年三月十一日にその取を辞

し五十八歳の享保十四年九月廿九日病氣に罹り江戸に歿した。

法謚 統義院殿宏徳至質大居士。東京三田の大衆院に葬つた。

○ 戸川達索

撫川領主 出藏 出佐守 從五位下

室は横山左門忠知の女 (享保十八年十月六日歿、法謚智証院殿妙信日男太師)

達索は元禄十二年に生れ三十一歳の享保十四年十一月十一日嗣を継ぎ、

○ 享年二十九歳 三田の火倉院に葬られた。
法證は内裏院殿淨蓮觀照大居士といふ。

○ 戸川達壽

撫川領主 万藏 達兼 (達恒の四男)

室は御部屋位 某女 (寛政九年六月廿三日没、法證葉凡院殿貞樹日雄大姉)

達壽は文化九年五月十日没 法證 覚真院殿室池昭蓮大居士。(年齒不詳)

寛政十年十一月十二日に幕府に差出した庭瀬藩創始時代の戸川家家臣の名簿の寫を載す。

御奉高 三万石

戸川肥后守様御実名 達安

御一青様御病氣にレテ京都に御住居 (達安の嫡男 正安)

土佐守正安様御跡目 二万三千三百石

主馬守九様御分知 三千四百石

千九郎守利様御分知 (早島領主始祖) 三千三百石

權左衛門義安様 (令室) (世江領主始祖) 三百石にて別殿御勤志レ

源兵衛安吉様 五万石にて家老取

御女子 花房志摩守殿御内室

右同 日置内藏助殿御内室

右同 御家老戸川又左工門殿御内室

右同 初々堀三右工門殿後千園道知左殿御内室

西山市左工門善右工門 持筒五人定江戸

高三百石 持筒五人定江戸

高二百五十石 馬廻り 國富重郎兵衛重助

高二百五十石 馬廻り 國 辰之助

高二百四十石 總奉行役 植原茂右三内角右三内

高二百三十石 角南五郎兵衛工平八

高二百石 岡 五郎左工門 孫傳治

高二百石 高野領主戸川家の重臣岡氏の先祖にして墓石は早

高野早島一五六番地納所浩氏の御宅の北首后山平に

ある。此上高さ二一〇程、二段の台石に三五程角の竿石

を置き、その上部に笠石を載せしむ。正面に法名「涅槃

実情院日球尊聖」左面に寛文十庚辰曆霜

月廿七日と刻んである。子孫は明治以後断絶すと。

高二百四十石 寺社奉行 菊田兵右三門九太夫

高二百石 近侍役 持筒五人 河合七郎右三門小八郎

高二百石 持筒五人 庭瀬用人 岡 孫兵衛孫太丞丞

高二百石 近侍役 加地小左工門

高二百石 馬廻り 森三郎兵衛大助

高百九拾石 山本八右工門 浅工門

高百五拾石 井上八郎右三門六之助

高百五拾石 新在權兵衛左工門

高百五拾石 江戶公儀役 留守居役 武田甚兵衛

高百五拾石 馬廻り 山上源五兵衛 孫三郎

高百拾石 吉村作右三門 五郎右門

高百拾石 高畑九左衛門

高百拾石 本御玄叔十郎兵衛

高百拾石 桑田玄益玄伯

高百拾石 近侍並庭瀬用人 佐末次郎左三門 孫右郎

高百拾石 江戶苗居用人 北山伊左工門

高百拾石 近侍役 範浦兵左衛門

高百拾石 供廻支配 桑田源五郎

高百拾石 倒小姓 河内佐太夫

高百拾石 馬廻り 通生十右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

高百拾石 園 孫右衛門

延享四年五月十五日に大番頭となつた。大坂城の守衛となり寛延元年十一月十三日大坂の地に致した。享年五十歳。妹尾の盛隆寺に葬つた。法諡 大通院殿達山道智大居士

大賀家文書に
一筆申入候 年久何角諸事用向預世話 大慶申候 此後 愈不相替
出精頼入候 仍而若斯候 已上

△ 四月六日 戸内膳 達索 (花押)
寒冷之節 無別異之由 珍重存候 我等近年不如 意故 毎事平由
さ鈴申談 心入之事共ニ而 是迄要用済來 大慶申候 当暮別而 六
々敷可有之候得共 今年凌候ハハ 連々作廻も致能可罷成候 当時者
不任心底 勝手向追々直リ候ハ、全疎意存間敷候 当年も主鈴義
差遣候間宜様ニ相談有之 愈 出精頼入存候 委細 主鈴義 可申述
候 已上

九月廿六日 大賀喜右衛門との 戸内膳 達索 (花押)

△ この宛名の大賀氏は小西の豪農にして大賀一即博士の先祖である。文書
の年号がわらわらないが延享の頃(一七四一-一七四七)のものと考えられる。
當時は多くの大名のみならず戸川家のような旗本は財政に困窮し再々
手田主銀なるものを遣はして大賀家へ宝策の相談を持ちかけられたら
しくその依頼状である。
△ 撫川東町の山口理一郎の宅に高さ四十五粒、蓮台の上に立つてゐる地
藏菩薩の鑄造像を保存してゐる。觀音開きの厨子に納められた赤銅製の
尊像にしてその裏面に「戸川達索造之」の初文がある。年号がないが達索在
世中の元文々寛保の頃の作と思はれる。
山口理一郎は昭和三十一年故人になつてゐるが、この地藏尊の由来に

ついでこう語つた。
戸川家は代々早稲の習がありその原因は始祖秀安以来熱心な日蓮宗の
信仰者であつたので庭瀬藩主時代に領内日畑の路傍にあつた石地藏を破
摧したことがある。(日蓮宗は地藏尊を祭らな。第十輯停説篇、切截地藏尊の由来参
照) 庶民の信仰の対照物である佛像を毀損した事によつて子孫は榮えず
ついに封土は改易に遇ひ、達索の在代には兄弟男女十数人は幼少にして
この世を去つてゐる。そこで達索は子孫繁榮、國家安泰の新願を起し應
徳寺にて領内の各宗僧侶數十人を招いて、千僧供養を行つた。この時こ
の鑄造像を数百体つくつて広く家臣にわかち地藏尊を信仰せしめたその
一つであるという。

山口家の先祖は元禄十六年板倉家分限帳にみえる「十人扶持 山口道庵」
とある板倉家抱の医師の末葉にして、中世この地で藥種商を営み戸川家
の御用を勤めた家柄である。

○ 戸川達恒 源次郎 内膳
撫川領主 室は毛利讃岐守政苗の女 後室は何某 (明和九年正月十三日没。法諡 惠親院殿
辨了妙淨大姉)

達恒は寛延元年十二月廿三日父達索の遺領を継ぎ明和九年八月十日享年
四十二歳で歿した。東京の三田大乗院に葬つた。

○ 法諡は興雲院殿真覚義應大居士という。
戸川達邦 鉄藏 (達恒の嫡子)
室は片桐石見守貞芳の女 (明和元年甲申年十二月廿日没。法諡 達成院殿妙受日身大姉)

結室は山崎兵衛忠治の女 (寛政八年四月廿七日没。法諡 貞照院殿智鏡真時大姉)
達邦は安永元年十一月七日三歳にして嗣を継ぎ寛政十年七月二十六日卒

- 一 高五拾石 明誥奉行末代一人
- 一 高五拾石 同斷 甚五左衛門
- 一 高五拾石 同斷 緞所中兵衛
- 一 高五拾石 〃 〃 清右衛門
- 一 高五拾石 〃 〃 市川理右工門傳兵衛
- 一 高五拾石 〃 〃 武具支配 黒政喜兵衛
- 一 高五拾石 〃 〃 大工頭外三人扶持
- 一 高五拾石 同斷 笠井甚五兵衛 藤左夫
- 一 高四拾石 同斷 手松三郎右工門藤左工門
- 一 高四拾石 〃 〃 中間役頭 三石五十三人 立田山奉行
- 一 高三拾石 〃 〃 砂場新右工門 龜之助
- 一 高三拾石 〃 〃 側小姓 福田庄之助 文右衛門
- 一 高三拾石 〃 〃 歳奉行 大飼九郎兵衛 九兵衛
- 一 高三拾石 〃 〃 船頭水子 六人
- 一 高三拾石 〃 〃 寺島六平 右衛門
- 一 高三拾石 〃 〃 中間五十三人
- 一 金七兩四分三人扶持 小野自兵衛 孫兵衛
- 一 金七兩四分三人扶持 松永世藤兵衛
- 一 金七兩四分三人扶持 江戶細戸役
- 一 金七兩四分三人扶持 鮎浦新助
- 一 金七兩四分三人扶持 中小姓
- 一 金七兩四分三人扶持 河合猪兵衛
- 一 金七兩四分三人扶持 歳奉行
- 一 金七兩四分三人扶持 山田勤右衛門
- 一 金七兩四分三人扶持 中小姓
- 一 金五兩四拾扶持 所務役外 中間役
- 一 金五兩四拾扶持 諸垣武右衛門
- 一 金五兩四拾扶持 下屋鋪助方 病氣三上
- 一 金五兩四拾扶持 鉢木四郎兵衛
- 一 金五兩四拾扶持 妹尾崎頭 中間誥 步行目付
- 一 金五兩四拾扶持 破損方 三垣長兵衛
- 一 金五兩三人扶持 下屋鋪助方 北山兵衛 右衛門
- 一 金五兩三人扶持 目付 白井久右衛門
- 一 金五兩三人扶持 江戶助方 平田助三郎
- 一 金五兩三人扶持 助方 馬島金左工門
- 一 金五兩三人扶持 御部屋付 風呂御座頭
- 一 金四兩三人扶持 手藏跡 山田惣左工門
- 一 金四兩三人扶持 料理方 高原嘉助
- 一 金四兩三人扶持 小林九郎右工門
- 一 金四兩三人扶持 田沼兵衛
- 一 金四兩三人扶持 下屋鋪守り上
- 一 金三兩三人扶持 下屋鋪 平田助右衛門
- 一 金三兩五人扶持 江戸匠 松本孫右工門
- 一 金五兩一人扶持 茶道 奥村清庵
- 一 金四兩 〃 〃 小島道波
- 一 金四兩 〃 〃 每野玲慶
- 一 金四兩 〃 〃 石原長賀
- 一 金四兩 〃 〃 小林祝齋
- 一 金四兩三人扶持 江中足輕頭 錠口番

- 一 金七兩三人扶持 中小姓 小西平七
- 一 金七兩三人扶持 三 船勘兵衛
- 一 金七兩三人扶持 江戸祐筆
- 一 金六兩三人扶持 馬役 中間十一人 永原勘作
- 一 高拾人扶持 小野門右衛門
- 一 高拾人扶持 堀田喜三郎
- 一 高拾五人扶持 〃 〃 沢木政三郎
- 一 高拾五人扶持 〃 〃 富川萬作
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 新庄作之丞
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 佐々木孫太郎
- 一 上下扶持 〃 〃 山幸喜左工門
- 一 金六兩三人扶持 〃 〃 山中源八
- 一 金五兩 〃 〃 小西四郎左衛門
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 角田平八
- 一 高七人扶持 京御兵衛所 石升兼意
- 一 高現米拾石 伏見藏奉行 妻屋三右衛門
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 子甚右衛門 〃 〃 仰付
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 本御十郎左衛門
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 坪井平藏
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 小野伊左衛門
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 藤田武兵衛
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 小野宗友
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 山野宗友
- 一 金五兩三人扶持 〃 〃 土井津右衛門

大藏平左衛門
 金三兩三人扶持 錠口番 阿部七右衛門
 高五兩五人扶持 大段屋鋪守
 小寺孫三兵衛
 高九石三人扶持 勘定役 横部茂兵衛
 (おわり)ニの項未完
 △一月物故者 寛永十五年且日 辰宮重昌 北五十五歳
 宝曆九年十一月廿日 杉林寺僧 慧山 坂七十五歳 天保四年
 一月廿日 海野 禮寺 礼 明治七年十一月廿七日 戸川 達 歳 強

飲食物一式

よしや旅館

山陽線 庭瀬駅前 電話三九番

迅速 丁寧

吉備 夕之

庭瀬駅前 電話 58 310